

II ホルモン剤投与による採卵

1. 材料と方法

昭和54年のハマフエフキ親魚群では自然産卵による採卵が不可能と思われたのでこれらの親魚を使用して、ホルモン剤投与による採卵を試みた。ホルモン剤はゴナトロピンを使用。5月9日から6～7日間隔でキナルディンによる麻酔後、全尾数について魚体重1kg当り500マウス単位の筋肉注射を行なった。筋注部位は背鰭中央基部と側線の間付近である。注射後は60トン親魚水槽へ戻し、以後の採卵はサイフォン方式によった。

2. 結果と考察

表-4に採卵結果を示した。ゴナトロピンの注射は合計6回行ない採卵した回数は7回であった。そのうち5回は全卵とも未受精卵(沈下卵)であり、5月20日と5月21日に採卵した中になぜかの受精卵(浮上卵)が確認された。総採卵数は156,000粒と少なく、そのうち受精卵は1,200粒であった。受精卵は30ℓパンライト水槽へ収容し、ふ化飼育を行ない卵内発生から仔稚魚の形態変化を調べるのに使用した。

ゴナトロピンを注射した尾数は11尾であるが腹部がわずかに肥大したと思われるのが2尾、残りの9尾はいずれも腹部の肥大は認められなかった。魚体の小型魚が多かったため、ホルモン剤投与の効果が充分得られなかったように思われる。今年度はゴナトロピンによる成熟、産卵促進を試みたが、昭和51年～53年度においてはいずれも自然産卵により採卵し受精率、ふ化率とも割合高率で良好な成果をおさめている。今後ともできるだけ自然産卵による採卵が可能ないように、健全な親魚の確保に努める必要がある。

表-4. 採卵結果

年月日	ゴナトロピン注射	採卵数 (粒)	受精卵 (粒)	未受精卵 (粒)	水温 (°C)
昭和54年					
5月9日	○				
" 11日		24,000		24,000	26.8
" 13日		19,200		19,200	26.6
" 16日	○				
" 18日		21,600		21,600	24.4
" 20日		9,600	少量	9,600	24.5
" 21日		19,200	1,200	18,000	25.0
" 22日	○				
" 24日		7,200		7,200	26.0
" 28日	○				
" 30日		55,200		55,200	26.2
6月5日	○				
" 11日	○				
合計	6回	156,000			